資料７

平成２９年５月３０日
子ども部子ども家庭課

東洋大学「地域で暮らす母子家庭の貧困からの自立に向けた生活保護と子ども・子育て支援の連携に関する研究」の協働について（経過報告）

１　経過

ひとり親家庭支援策については、ひとり親家庭の不安軽減、孤立防止等を図るため、世田谷区子ども計画の推進に合せ、各種支援策を総合的に推進しているところである。

特に、子どもの貧困率も高く生活の困窮や健康への不安、さらにＤＶ問題など、多様な状況にある母子家庭に対し、平成２５年度から平成２９年度の５年間、地域で暮らす母子家庭の自立に向け、東洋大学と協働し、実践をとおしながら、支援する側の職員の実践力の向上を含め継続的・総合的・重層的な支援のあり方を検討している。

２　協働内容

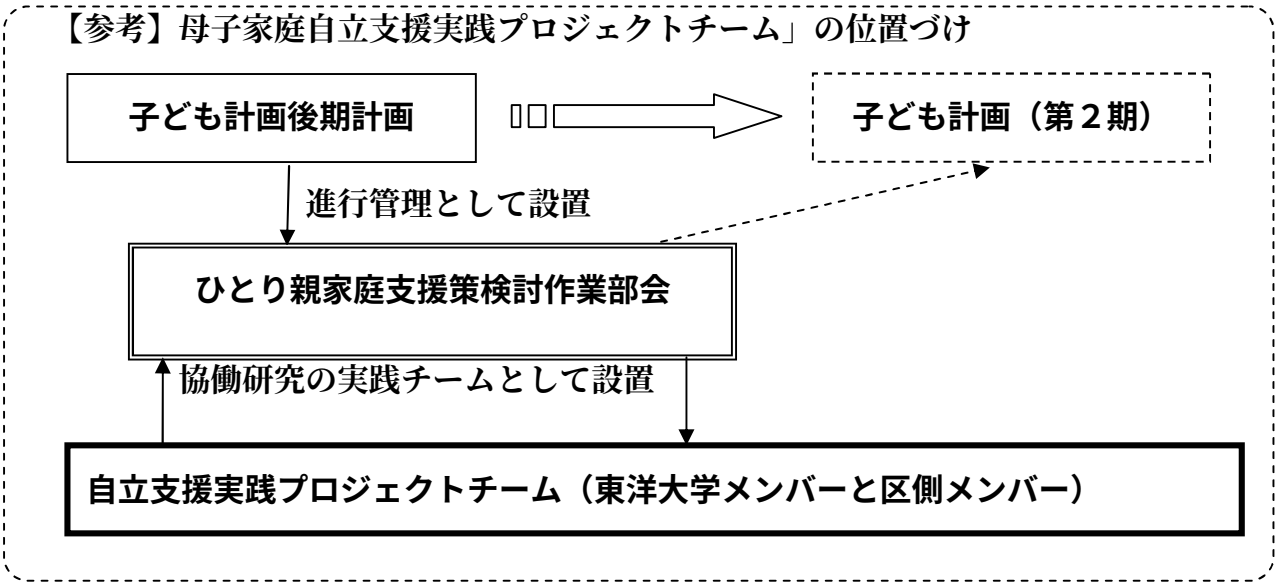
母子家庭に対する効果的な自立支援プログラムの開発と、支援する側の職員（ケースワーカー）を対象とした研修や事例研究を実施し、母子家庭の抱える問題の理解をさらに深め、より効果的な支援を行うためのスキルの習得と全体のソーシャルワークの向上に向け実践をしている。さらに、母子家庭の母親と子どもがそれぞれ抱えている課題を自覚し、克服するための力を培う実践と研究を行っている。

○主な検討項目

・自立支援プログラム（セルフチェックシート等）の検討、実践、評価　【別紙１】
・ケースワーカー等支援者を対象とした研修の実施と見直し　【別紙２】
・自立支援システム(コーディネーターを含めたネットワーク)の検討　【別紙３】　等

３　実施体制

当初より、世田谷区子ども計画後期計画の進行管理として設置している、「ひとり親家庭支援策検討作業部会」の下に、「母子家庭自立支援実践プロジェクトチーム」を置き実践を開始している。自立支援プログラムの実践等は、主に烏山地域をモデル地域として試行的に実施している。



４　プロジェクトチームメンバー

主に実務担当者を中心に構成する。

【東洋大学側】

社会福祉学科・福祉社会開発研修センター　森田明美教授　他関係者約７名

【区側】

烏山総合支所生活支援課の生活保護のケースワーカー及び母子及び父子自立支援担当、健康づくり課保健師、公立保育所の保育士、母子生活支援施設の職員、社会福祉協議会の担当職員、その他ひとり親家庭の自立支援に関わる職員

５　今後のスケジュール(案)

平成２９年	４月～	実践研究を行いながら具体的支援策の検討の継続
	９～１０月頃	体系的研修の試行
	以降	実践のまとめ

自立支援プログラム（セルフチェックシート等）の検討、実践、評価

様式第　　号

作成日　平成　　年　　月　　日

セルフチェックシート（母親用）

氏　名

大項目							備　考
母の健康		今は受診していない	定期的に通院ができている	状態が安定している	服薬・通院しながら生活ができている	自分の体の状態についてコントロールできている	
生活スキル	家計のやりくり	手伝いがあればできる	やらなければと必要性を感じている	少しずつできるようになった	だいたい自分でできる	工夫しながらできる	
	掃除	手伝いがあればできる	やらなければと必要性を感じている	少しずつできるようになった	だいたい自分でできる	工夫しながらできる	
	食事作り	手伝いがあればできる	やらなければと必要性を感じている	少しずつできるようになった	だいたい自分でできる	工夫しながらできる	
地域との関係		近所にどんな人が住んでいるか知っている	学校・地域などの行事へ参加している	市役所・学校などに相談できる	地域の人と交流がある	困ったことがあった時に近所の人に相談できる	
子どもとの関係		子どものことに関心がある	子どもの気持ちを理解している	子どもと一緒に年相応の活動をしている	子どもと相談し合うことができる	お互いが支えあう関係である	
就労意欲		短時間のパートやアルバイトが可能	長時間のパートやアルバイトが可能	公共交通機関を利用しての就労が可能	週４日３０時間の就労ができる	週５日４０時間の就労ができる	
親・兄弟などとの関係		日常的な会話をしている	色々なことを相談している	困ったことがあったら助けてくれる	お互いを尊重している	お互いを支え合っている	

様式第　　号

作成日　平成　　年　　月　　日

セルフチェックシート①(子どもの育ち)

名前		年齢	歳	性別	女　・　男	日中の居場所	

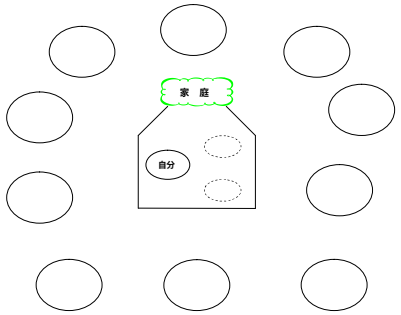
大項目	小項目	現状					
子どもの育ち ※４歳以上対象 ※子どもが２人以上いる場合は①②③・・とカッコ内に記入してください	清潔(入浴等)について		できていない（　　）	大人と一緒にできる（　　）	促されればできる（　　）	だいたい自分でできる（　　）	自分でできる（　　）
	身の回りの整理整頓について		できていない（　　）	大人と一緒にできる（　　）	促されればできる（　　）	だいたい自分でできる（　　）	自分でできる（　　）
	生活リズムについて		できていない（　　）	大人から指示されればできる（　　）	大人に促されれば年相応の生活ができる（　　）	できないこともあるが、しっかりとしてきている（　　）	自分で維持することができる（　　）
	家庭状況等(父不在、生保受給)について		家庭の状況を何となく知っている（　　）	家庭状況の話を聞いている（　　）	家庭状況がわかっている（　　）	家庭状況を受け入れている（　　）	家庭状況を受け入れ、自分で考え行動できる（　　）

様式第　　号

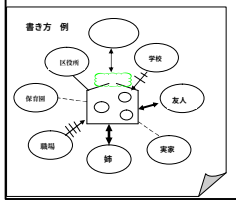
～いまの状況を知るためのシート～

氏名

作成日



書き方　例



基本標記

強い関係
普通の関係
弱い関係
ストレスのある関係
関係の方向性

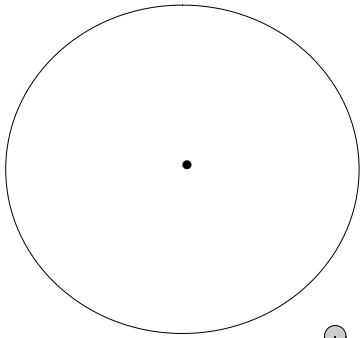
あなたのまわりにいる人、施設などを自由に書いてください。
例：　子ども、保育所、友人、病院など

様式第　　号

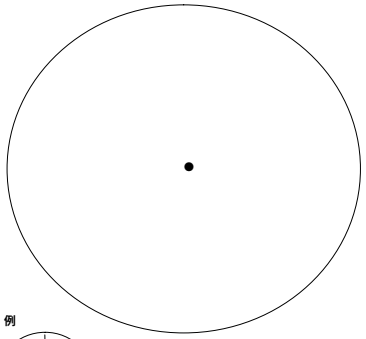
氏名

期間　平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日

～いま困っていること～

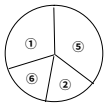


～つぎの目標～



項目
① 健康　② 生活　③ お金　④ パートナー
⑤ 地域での関係　⑥ 子どもの育ち
⑦ 子どもとの関係　⑧ 就労について
⑨ 親・兄弟などとの関係
※ 自分に該当する項目を選んでください。

書き方　例



次回のふりかえり予定日　平成　　年　　月　　日

【別紙１】

【別紙２】

ケースワーカー等支援者を対象とした研修の実施と見直し

研修の課題と提案

１．情報交換会及びひとり親家庭支援者研修会の取り組をふまえて

- スキルアップを目的とした研修では、段階をふんで、共にスキルアップできるよう、参加者のレベルを統一する。

- アセスメント段階において、利用者からの情報が不足し、ニーズを把握できていないにも関わらず、現象行動のみに着目した目標が設定されるため、ニーズが充足された状態を目標に据えるという認識が定着していない。このような現状をふまえ、利用者から情報を収集するために、利用者の語りを聴く力と、聴ける関係を構築する力の獲得することを研修の課題とする。

２．提案　～当事者主体の相談支援研修～

ステップ１　　基礎研修　　半日または 1.日

目的	子ども・家庭の現状を理解し、子どもと保護者を支援する技法について理解する。		
		内容	
		半日	１日
2 時間	講義	●子ども・子育て家庭の現状理解 ●ひとり親家庭の理解 地域・母子生活支援施設 ●社会資源の理解	半日と同じ
2 時間	演習	●相談援助の基本姿勢 ●コミュニケーションスキル ●ジェノグラム・エコマップ	半日と同じ
３時間	演習		●子ども・家庭問題への理解 ●振り返りのグループ討議

【別紙２】

ケースワーカー等支援者を対象とした研修の実施と見直し

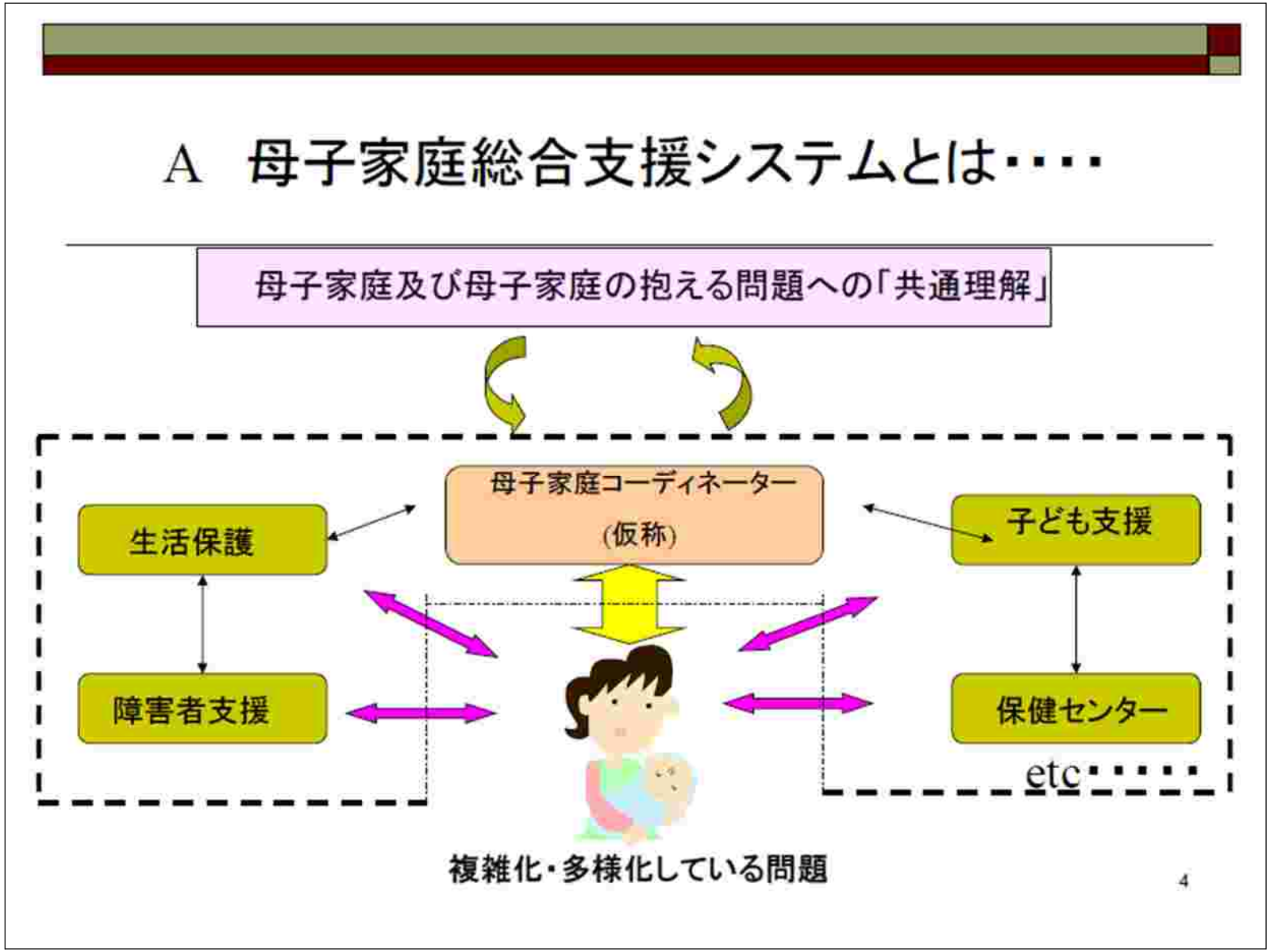
ステップ２　　事例検討　　半日または１日

目的	事例を用いて、ソーシャルワークの考え方をもとにしたひとり親家庭への支援について理解する。		
		内容	
		半日	１日
1.5 時間	講義	●対人援助の価値と倫理 ●記録の取り扱い ●子どもと家庭に起きる問題の理解 ●相互理解のためのチェックシートなどの活用方法	半日と同じ
2.5 時間	演習	●記録の取り扱い ●ひとり親家庭の支援について理解する ・語りによる利用者への共感的理解 ・アセスメントにおけるニーズ・目標 ・プランニング	半日と同じ
３時間	演習		●関係機関との連携 ●振り返りのグループ討議

ステップ３　スーパービジョン　　１日

目的	スーパービジョンの必要性を理解したうえで、現場でそれをどのように実現するための課題を検討する。		
		内容	
		半日	１日
1 時間	講義	●スーパービジョンとは ●実習におけるスーパービジョン ●PDCA の管理サイクル	半日と同じ
3 時間	演習	●スーパービジョンを受けるための記録 ●グループスーパービジョンによるケース検討会	半日と同じ
３時間	演習		●ケースカンファレンス ●振り返りの討議

自立支援システム(コーディネーターを含めたネットワーク)の検討



【別紙３】